

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900447		
法人名	株式会社リツワ		
事業所名	Lagom東五代 (B棟)		
所在地	〒021-0003 岩手県一関市東五代4番18号		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・自宅での生活の継続性と、「できることは自分で」を意識し、掃除や調理、洗濯その他の日常生活で役割が持てるよう支援している。</p> <p>・入浴の機会を確保し、可能な限り毎日入浴できるよう支援している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月30日

<p>本県の南の玄関といわれる一関インターから東の市立総合体育館方面に向い10分程度、大型量販店や大型スーパーなどがある幹線道路から入った新興住宅地に開設されている。運営主体は、日常的に医療や教育などで交流の深い隣県の栗原市にあり、20数か所の高齢者事業を行っている。同じ一関市内に2か所の有料老人ホームを運営し、系列の介護事業所間の協力体制も整っている。開設2年目を迎えた事業所であり運営理念を、「住み慣れた地域で家族や地域の方たちと関わりを保ちつつ、生活が継続できる。」とし、最小限の日課のみを定め、高齢の方が在宅で暮らす時と同じように、その日の天候や希望により外出などの活動内容を決めて支援している。また、入浴も施設だから週2回という既成概念にとらわれず、毎日でも入浴できており、地域で暮らす高齢者の生活に近い暮らしの実現に努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたりまえのことをあたりまえに」を基本として、施設に入ったからと制限されることなく外出の機会を設け、また日常生活に役割が持てるよう支援している。	「住み慣れた地域で家族や地域の方たちと関わりを保ちつつ生活が継続できる。」という法人の理念に基づき、地域で暮らす同年齢の方々の生活に近づけるように、「あたりまえのことをあたりまえに」という、基本を職員間で共有し、職員一丸となって支援を展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、地域との関わりを持つことができなかったが、施設周辺の除草作業等に取り組み、地域で暮らしている実感が持てるよう支援している。	コロナ禍の最中に開設し、まだ2年目ということもあって、地区の行政区長と民生委員との係わりができた段階にある。施設周辺の草取りや散歩の際に地域の方々と挨拶や会話ができる関係は築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な事例はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症により、書面開催としていたため、直接意見を組み入れることは出来ていない。 今後は事業所での開催を予定しているため、施設運営に生かしていきたい。	運営推進会議の委員には利用者代表、家族代表、民生委員、行政区長、市役所担当者と地域包括支援センター職員がメンバーとなっている。コロナ感染対策により、2か月毎の書面開催としているが、意見や提言をいただくまでには至っていない。	コロナ感染対策が必要ですが、地域の公民館などを活用した対面による会議の開催や、地域交流や災害時の協力体制などを議題とし、運営に助言・協力をいただける委員会となることを期待します。併せて、必要な助言を受けるため、消防署職員や警察署員をオブザーバーとして出席依頼しては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて随時連絡を取っている。	市の担当者は、運営推進会議のメンバーになっており顔の見える関係が築かれており、申請や制度改変等に関することは、日常的なメールのやり取りで行われている。生活保護受給者の利用もあり、福祉事務所のワーカーとの連携も支障なく行われている。]	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠やベッド柵の使用方法についても周知し、身体拘束排除に向けて取り組んでいる。	施錠は、安全確保のため夜間のみ行っているが、安全確保のためのセンサーは使用していない。身体拘束に関する指針を作成し、3カ月に1回管理者、ユニットリーダー出席の委員会を開催している。ウェブを活用した職員研修を年3回実施し、スピーチロックの防止については、随時、管理者とユニットリーダーが、職員と話し合い防止と改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ちょっとしたことが虐待につながる危険性があることを周知し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な制度に関する研修や話し合いの機会はなく、支援した事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見があれば随時対応するようにしている。(事例なし)	通院付き添い時や来所した際に、家族の思いや意見を伺うようにしている。ホームから電話が来ると何かあったのではと心配になるとの家族の声もあり、了承を得た家族とはラインによるやり取りを行っている。家族から好評を得ている。利用者からは日常の会話等から聞き取りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、意見を取り入れている。	法人の経営者と管理者は、「まずやってみよう、ダメだったらやめよう。」という方針を職員に示しているため、日常的に、職員から「こんなことをやりたい。」「このように変えたい。」などの意思表示が多い。管理者は年2回人材育成を目的とする自己評価面接を個別に行い、職員の思いをくみ取る場としている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価、面談の機会を持ち、環境の維持改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やリーダーにより、職員それぞれの力量に応じて随時アドレスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との関りや交流は少ない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居時の状態に合わせて介助方法を検討したり、対応方法について検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、契約時に直接聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性の把握に努め、可能な限り早急な入居につなげられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設入所後もやりがいや楽しみが持てるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との接点を失うことがないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を制限することなく、関係性の維持に努めている。	家族の面会が多い。利用者の希望による自宅訪問のドライブや四季の変化に応じたドライブを実施している。入居後、関わりを持った訪問医師や理容業者が、新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに協力して生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も随時相談できるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向に沿うよう支援している。	自分の思いや意向をうまく伝えられず、表情や行動から職員が判断する方が2人、二者択一の質問で応答する方が2人、口頭で訴える方が15人となっている。ニュースを見て、〇〇でひな祭りをやっているのを見に行きたい、〇〇の紅葉が見頃と言っていたと、話してくれる。行きたいという希望を随時取り入れ、小グループや複数回の実施で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めているが、施設入居後の対応に追われ、生活歴を意識したサービスの提供には至っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ本人のペースで過ごせるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しが主となり、現状に即した内容等とは言えない。	計画作成担当者が入居前に、状況の聞き取りを行い、更に入居後の様子を観察し、職員の意見も踏まえて、本人、家族の同意を得て作成している。毎月の職員会議を活用し職員の意見を拾い上げながら、カンファレンスを行っている。見直しは3か月毎とし、安定していれば6か月毎としている。カンファレンスに出席できない職員には引継簿と口頭で伝え、共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応できるよう、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に付き添い、施設での状態を報告することで情報共有に努めている。	全員が入居前のかかりつけ医を受診しており、通院は家族の付添いを原則としている。職員の付添いを医師から要請された場合と精神科については、生活の様子を正しく伝え服薬調整をするため、職員が付き添っている。歯科や眼科は、近隣の開業医を利用している。状況により主治医から訪問診療を勧められた利用者があり、現在2人の医師が、訪問診療医として来所している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も定期的な情報交換を行い、随時対応できるように関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、同意を得ている。	重度化の指針を作成し、入居時に説明し同意を得ている。医療的処置が常時必要となり、ホームでの生活が困難になった場合には、法人が運営する市内の介護事業所を紹介している。重度化しても、常時医療を必要としない利用者の場合には、機械浴を導入しているため、寝たきりとなっても入居を継続することが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	周知はしているが、具体的な訓練等はない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。	火災想定に加え夜間想定として2回の避難訓練を実施している。有事の場合には、市内にある法人運営の有料老人ホームへ避難することとなっている。飲料水は、事業所として備蓄しており食料は、法人本部で備蓄している。	夜間の有事の際には、夜勤職員だけでの対応は厳しいものと予測されるため、運営推進会議を通じた所謂防災協力員の確保に加え、職場研修として夜間に発災した場合の職員の動きや、市内にある介護事業所との連携について早急に確認しておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語を原則として対応している。	特に、入浴と排泄の場面では、声かけの工夫と配慮の下で、利用者の尊厳を損なわない誘導と支援に努めている。また、利用者の経験や特技を活かした活動やお手伝いをお願いするなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の意向を探り、実現に向けて検討・対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付けに利用者に関わるよう支援している。	献立は法人本部で作成し、食材はチルドの状態が届き、職員と利用者が一緒に盛り付け配膳を行っている。みそ汁は、事業所で職員と利用者が一緒に作っている。行事食や芋煮会などの事業所独自の企画の場合は、本部からの食材提供を休止している。利用者から要望が多い刺身は、直接近隣の大型スーパーから購入し提供している。また、利用者の嗜好調査を行い事業所としての希望を法人本部に伝えて献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を観察し、記録している。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でのケアが難しい方だけでなく、自力で行える利用者にも声掛けし促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皮膚状態に応じて排泄介助の間隔や使用するパットを随時検討している。	タブレットで利用者の排泄状況を記録し、排泄リズムを把握して健康管理に役立てている。自立は6人、パット・リハビリパンツ5人、トイレ誘導4人、全介助が3人となっている。3人が入居後、排泄の自立ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいるが、内服薬で調整する機会が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り毎日に入浴できるよう声掛け・支援している。	入浴は毎日可能であり、入浴時間は午前10時から午後5時、少ない人でも週4回は入浴している。機械浴を導入し、移動に配慮を要する利用者も、安心して入浴を楽しめるようになった。ゆず湯やしょうぶ湯、利用者によっては自分専用のボディソープで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服漏れがないよう、ダブルチェックを行いながら準備し、内服介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に応じて随時対応している。		

令和 5 年度

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、買い物やドライブ等、可能な限り随時対応している。	利用者の希望により、随時外出している。近隣の大型店に散歩がてら出かけて買い物を楽しんだり、ニュースで見た紅葉やひな祭りを見たいとの希望にも応えることで、在宅の同年齢の方々が行っている外出を、「あたり前のことを、あたりまえに」との理念に基づき実践している。家族からの希望があれば、外泊や外食にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身での管理が難しい利用者が多く、トラブル防止のため、すべて施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて施設の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間作りに努めている。	食堂兼リビングが共用の場となっており、テレビが設置され、観葉植物も置かれている。エアコンや冬季間の暖房補助のためのガスファンヒーターが設置され、照明も利用者が眩しくないように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置や向きを検討し、入居者同士が交流しやすい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に危険が及ばない範囲で持ち込み自由としている。	居室には、洗面所、三段タンス、机が備え付けられている。利用者の好みに応じ、テレビやラジオ、小物や大切な思い出のものを持ち込み自分の部屋として使っている。	

令和 5 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分に目印をつける等、自立に向けた支援をしている。		